



「みんながんばった発表会」

17P

286号バイパス視察
未来へつなぐ橋

11P

消防団装備の充実を
町政を問う

4P

クマ被害対策
不用果樹伐採へ

2P

声を想いを
川校生との意見交換会





川校生の本音

聞きたい!

「声を想いを」シリーズ

バスの本数増やして!!

1月21日、大河原産業高等学校川崎校の3年生20人を対象に、広聴活動の一環として議会との意見交換会を行いました。「川崎町に住みたい町になるために必要なことは」をテーマにワークショップ形式で意見交換し、高校生の視点から町が発展するアイデアを本音で話し合いました。さまざまな意見から、その一部を紹介します。



魅力発信

川崎町の水道水はおいしいので、水を売ってPRする。

自然の豊かさや、親しみやすい雰囲気などをSNSで発信して町を知ってもらおう。

アラバキ以外にもフェスを開催して有名人を呼ぶ。

その他

街灯をもっと設置して町を明るくする。

部活動の上位大会への助成があつて助かる。

気軽に買い物ができる店を増やしてほしい。



移動手段確保

電車を通す。バスの本数を増やす。

町内外への通学に対して補助金を出す。

居場所づくり

カラオケやゲームセンターなどの娯楽施設があれば滞在する若者も増える。

帰るバスの時間までの居場所がほしい。

図書館を造ってほしい。

気軽に行けるドッグランや公園があれば住みやすい町になる。

学食があれば入学希望者も増える。

アルバイトができるのはコンビニぐらいなので、お店をもっと増やしてほしい。



大河原産業高等学校川崎校の皆さま、ありがとうございました。今回いただいた意見・要望は、川崎町の発展に役立てるため、町政へ反映できるといいます。

商品券県内最大 1人当たり1万8000円

国の重点支援地方交付金活用事業

川崎町 ふるさと応援 商品券

使用期限
令和8年7月31日(金)

配付のお知らせ
A券 8枚 + B券 10枚
18,000円

この店頭ポスターが目印です

川崎町ふるさと応援商品券
取扱い加盟店

お問い合わせ先 川崎町役場 地域振興課 ☎84-2117



■補正内容
国の臨時交付金を活用し、町内等で使用できる商品券の発行を目的に、委託料を計上するものです。

商品券配付

1億4840万円

■近隣市町村の状況

自治体	金額 (1人)	種別
川崎町	18,000円	商品券
大河原町	5,000円	商品券
村田町	10,000円	クーポン券
柴田町	7,000円	食料品券
蔵王町	15,000円	商品券
七ヶ宿町	10,000円	商品券
丸森町	10,000円	商品券
仙台市	3,000円	みやぎポイント

クマ対策 720本伐採へ



指定管理鳥獣対策事業 (クマ類総合対策事業)

■補正内容
全国的なクマの被害増加を受け、自宅敷地等の不用果樹を伐採することを目的に、委託料を計上するものです。

12月 会議

第1回会議は2日から5日、第2回会議は23日に開きました。
提案された議案は、条例改正案1件、補正予算案3件を慎重に審議し、原案どおり可決しました。
ここではその一部を紹介します。

国交付金活用

5800万円

すべて
可決

エアコン購入支援 175万円

■補正内容
高齢者世帯へのエアコン購入の支援を目的に、助成金を計上するものです。



▲熱中症対策として

省エネ設備助成金 追加 60万円

■補正内容
本年度実施している家庭用省エネ設備助成金の支給拡大を目的に、助成金を計上するものです。



▲2月末で申請受付終了

トイレ改修増額 450万円

■補正内容
川崎中学校の男子トイレ改修工事において、配水量を確保するため配管口径を大きくすることを目的に、工事請負費を計上するものです。



▲快適な衛生環境へ

物価高騰対策支援金 990万円

■補正内容
国の臨時交付金を活用し、町内の医療機関や介護施設等を対象とした支援金の支給を目的に、助成金を計上するものです。



▲経営環境をサポート

子育て応援手当 1629万円

■補正内容
国の補助金を活用し、物価高の影響を受けている子育て世帯に対して手当を支給することを目的に、扶助費を計上するものです。

ネット環境更新 610万円

■補正内容
小中学校で使用しているタブレット機器の通信セキュリティの向上を目的に、備品購入費を計上するものです。



さとう しょうこう 議員
佐藤 昭光 議員



▲町内に待望のオープン

問 最低賃金上昇に対応は

答 支援制度の周知に努める

問 事業者からの具体的な相談などはありますか。
答 町長 商工会に3件ほど相談があり、賃金上昇に伴う苦情や国の業務改善助成金などの内容です。国の支援強化を求めています。

問 事業者からの具体的な相談などはありますか。
答 町長 商工会と連携して、国の支援制度の活用などの情報交換を進めていきます。

問 最低賃金の改定があり、宮城県は1,038円と大台を越えました。町内の事業者に対する町の支援は、
答 町長 商工会と連携して、国の支援制度の活用などの情報交換を進めていきます。



▲求められる支援の充実

問 待望のスーパーに支援は

答 起業立地応援条例該当か確認

問 川崎小学校の西坂下にスーパーが令和8年1月下旬に開店すると新聞折り込みがありました。町中心部から撤退して11カ月、町民から待望する声が多く寄せられていました。

答 町長 以前質問があった企業への優遇措置は検討しましたが、町の企業立地応援条例による支援に該当するか確認し、従業員確保の面でも支援に努めます。

問 町中心部から無くなった鮮魚店を望む声が多くありますが、
答 町長 町の要望は伝えていますが、鮮魚はテナント形式の大型店のみとの説明でした。移動販売の方々は、エリアの拡大をお願いしているところですが、

問 開店を待ち望んでいた町民は多いと思います。デマンドタクシーや買い物支援バスなど、交通機関の対応を改善する考えは、
答 町長 デマンドタクシーは試験運転も含めて1年は続けていきます。買い物支援バスはすぐにはやめることはありませんが、状況を見て判断していきます。

議会中継スマホで見れます!!

LIVE 川崎町の公式LINEに登録して町や議会の情報を受け取ろう!



ページ	質問議員	質問内容
7	佐藤 昭光 議員	(1) スーパー出店 (2) 最低賃金の改定
8	大本 治久 議員	(1) ゲーム依存から守る取り組み
9	下斗米麻子 議員	(1) 高齢者への投票支援
10	佐藤 清隆 議員	(1) J-クレジット制度の推進を
11	的場 要 議員	(1) 消防団組織と装備
12	佐々木昭雄 議員	(1) 農地を宅地開発しては (2) 卒業式に服装の定義は

町政を問う

6人の議員が質問しました

●一般質問とは
町政全般の執行状況をただ質し、施策の提案や意見を述べ、時には是正を求め、町政をより良い方向へ導くものです。



おおもと ほんひさ 議員



問 スマホやゲームの影響は

答 健康面や教育面で懸念が

スマホやゲームは日常生活に深く浸透し、長時間使用による睡眠不足や生活習慣の乱れが懸念されています。家庭・学校・地域が連携した対応が求められています。

問 児童生徒の利用実態について、独自の調査を行っていますか。
答 教育長
教育委員会独自の調査は実施していませんが、各学校で定期的な生活習慣アンケートを実施しています。スマホやゲームの利用状況、生活の様子を把握するとともに、結果を保護者と共有する取り組みを行っています。

問 学校や保護者、相談機関にスマホやゲーム依存に関する相談は寄せられていますか。
答 教育長
依存に関する直接的な相談はありません。しかし、学校生活に関する相談のなかで、SNSでのやり取りを原因とした問題が、ここ数年で2件報告されています。

問 長時間使用することによる健康や学習への影響を、どう認識していますか。
答 教育長
健康面では睡眠の質低下や体力低下、眼精疲労、教育面では集中力低下や家庭学習時間の減少などが懸念されます。学校では外部講師による研修会を行い、町と連携した啓発を進めています。



▲便利だからこそ見直そう

問 スマホやゲーム依存は学校や家庭だけでは解決が難しい問題です。生活リズム回復につながる体験活動も含め、学校・家庭・地域が連携する仕組みを検討すべきでは。
答 教育長
スマホやゲーム依存には、各家庭の課題と町全体の傾向を踏まえた課題の二面性があります。各家庭の課題には状況に応じた支援を行い、町全体の課題には健康維持につながる体験活動などの取り組みを進めています。



▲生活リズム回復で健やかに

問 高齢者に期日前投票支援を

答 支援カード導入を検討

近年の国政選挙や地方選挙での当町の投票形態は、大きな変化・推移がみられます。高齢者が投票しやすくなるような支援が必要だと考えます。

問 令和6年度以降の国政選挙では期日前投票が当日投票を上回っています。今後はさらに増えていくと思われるので、高齢者の方が投票しやすい移動投票所などを設ける考えはありますか。
答 選挙管理委員長
移動期日前投票所を導入している自治体も多くは、投票所の統廃合により距離が遠くなった方などのケアを目的としています。導入費用と併せて、投票所の統廃合の必要性も考慮しながら検討していきます。

問 各投票所で靴を脱いで入るのが大変だという意見があります。今後、土足のまま投票できるように対応する予定は。また、投票行動そのものを支援する取り組みの考えは。
答 選挙管理委員長
土足マットやシートを敷いて対応することも可能ですが、滑りやすくなるリスクもあり難しいと考えます。投票行動の支援については「コミュニケーションボード」や「投票支援カード」の導入を考えます。

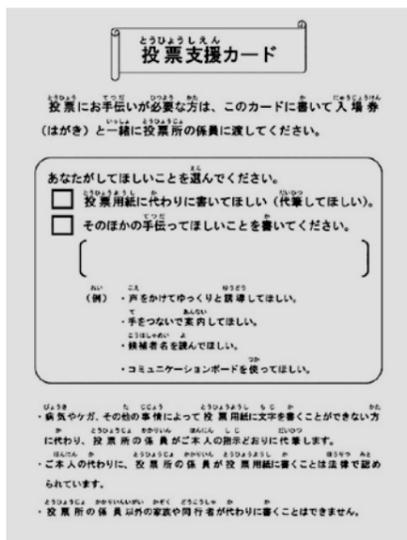


▲誰もが投票しやすい体制づくりを

問 当町には複数の高齢者施設が存在していますが、不在者投票のできる施設が3カ所に限られ、投票の機会が奪われていないか危惧しています。今後、実施設等の拡充等の考えはあるのか見解を伺います。
答 選挙管理委員長
不在者投票を実施するには、各施設が宮城県選挙管理委員会に申請して、指定を受ける必要があります。事務の人員確保など運営上の問題もあることから指定を受けるようお願いするのは難しいと考えています。



しもとまい あさこ 議員



▲高齢者に優しいカードの設置を



さとう きよたか 議員
佐藤 清隆



問 J-クレジット制度の推進を

答 期待はあるが慎重に検討

カーボンニュートラルに向けた取り組みとして、J-クレジット※制度が運用されています。自然環境や農業を中心としている自治体でも導入しており、自主財源の確保や農家の収入増などのメリットがあります。

J-クレジットとは省エネ・再エネ設備の導入や適切な森林管理等による温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして国が認証する制度です。



▲この自然環境を守る取り組み

問 J-クレジット制度について、当町はどう受け止めていますか。

答 町長

国内の脱炭素投資を後押しする、中小企業や自治体でも活用しやすい仕組みです。気候変動対策としての意義は大きく、森林整備などにおける自主財源の確保として期待しています。

問 町内の森林で吸収する二酸化炭素をJ-クレジットとして販売する考えは。

答 町長

町が管理する面積は、ある程度の収益が見込める面積であり、取り組む条件はそろっています。しかし、小規模自治体ほど事務負担も大きくなるなどのリスクもあることから、慎重に検討していきます。



▲森林から脱炭素に貢献

問 稲作農家の新たな環境保全収入として、水田の中干し期間延長はJ-クレジットとして推進が可能ですが、取り組むべきでは。

答 町長

中干し期間の延長はメタンガスの発生を抑制する効果があり、新たな設備投資の必要もないため多くの農家が取り組みやすいというメリットもあります。農家からの意見も参考にしながら検討していきます。

問 この取り組みは、企業と協力関係を作ることででき、社会的な役割も果たします。環境問題に積極的に取り組む自治体としてイメージアップやPRに繋がりますが。

答 町長

ゼロカーボンシティ宣言を行っており、宣言に沿った行動をとっていかなければなりません。必要性も理解しておりますので、視察など含め検討します。

問

機能性の高い防寒着を

答

来年度整備したい

川崎町消防団は、自分の町は自分たちで守るという精神に基づき活動しています。地域や家族、そして仲間を守るために団結した、地域防災の中核を担う組織です。

問 人口減少等の影響もあり、団員の減少が続いている状況です。最終的には消防団が判断することになりますが、班の統合についてしっかりと検討する時期になってきたのではないかと考えますが。

答 町長

消防団員数は年々減少し、現在205名で28班集体となっており、一番人数が少ない班は大針班の2名、続いて青根班の3名です。執行部からの提案も含め、消防団と協議しながら班の再編を検討したいと思っています。

問 県内含め他自治体では、活動服に合わせた防水性、視認性の高い防寒着を採用しています。今後の消防力低下を防ぐためには、組織の縮充と団員への装備充実も必要だと思いますが。

答 町長

現在は防水性、視認性がない一般的な防寒着を採用しています。消防団の活動は、当然雨や夜間にも行われますので、健康面や安全性を考慮して新たな防寒着を採用したいと思っています。



まとは かなめ 議員
的場 要



▲悪天候時の安全対策



▲体制の再整備を

問 防寒着の整備は、総務省の消防団救助能力向上資機材緊急整備事業の対象になります。対象であれば3分の1補助金、残り3分の2は交付税措置がされるということですので、整備に取り組むべきと考えますが。

答 町長

安全に大変な仕事をしてもらうために、やはり団員の皆さんにはしっかりとした装備提供が一番大切なことだと思っています。なるべく早くという思いで交付金がなくても来年度整備に向けて取り組んでいきます。



ささき あきお 議員
佐々木 昭雄



問 国営公園前農地の宅地開発は

答 まちづくり構想との整合性も

川崎町の魅力は、何といたっても蔵王の山並みが美しく望める点です。また、みちのく杜の湖畔公園も地域の財産です。さらに、令和11年には碓石赤石間のパイパスも完成予定で、川崎町の魅力が高まります。



▲四季折々の蔵王を望む絶景の場所

問 龍雲寺前の農地約120畝のほ場整備計画のうち、みちのく公園側に位置する約40畝(全体の約3分の1)を宅地開発することを検討しては。

答 町長 宅地開発は膨大な費用が必要です。また、都市計画マスタープランなど、町全体のまちづくり構想との整合性を検討する必要があります。

1月会議

蛙岩橋河川護岸改修工事

会議は7日に開きました。提案された議案は、契約案1件、条例改正案等4件を慎重に審議し、原案どおり可決しました。ここではその一部を紹介します。



▲長年の侵食が原因

工事名
町道小松倉線(蛙岩橋)河川護岸改修工事

契約方法
一般競争入札(総合評価落札方式)による請負

契約金額
7920万円

契約相手
川崎町大字前川字松葉森山12番地2
株式会社丹野林業建設
代表取締役 丹野将紀

問 小学校卒業式の服装は

答 意見交換の場を設定

問 卒業式の袴や中学校制服の着用について、保護者、学校関係者、教育委員会で幅広い議論が必要です。子どもが安心して卒業式に臨める共通理解やガイドラインを検討すべきと考えますが。

答 教育長 数年前にPTA役員から意見を伺う機会がありました。改めて意見交換の場を設定し、児童の健康面や安全面、経費を含めた家庭の負担や祝いのあり方などの観点から、広く考えを伺っていきます。



▲思い出に残る卒業式を

はじまります 「子ども誰でも通園制度」

■提案理由
子ども子育て支援法等の改正により、乳児等通園支援事業(通称「子ども誰でも通園制度」)を適正に実施するため、条例の制定、改正を行うものです。

■制定
・川崎町乳児等通園支援事業の設置及び運営に関する基準を定める条例
・川崎町特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例

■改正
・川崎町立かわさきこども園設置条例

利用者のメリット

こども誰でも通園制度

こども誰でも通園制度とは？

全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な保育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、保護者の多様な働き方やライフスタイルにかかわらず、形での支援を強化するための創設された新たな通園制度です。

対象者

- ・保育所等に通っていない
- 0歳6ヶ月～満3歳未満が対象

利用方法

- ・月10時間の枠内で
- 時間単位で柔軟に利用可能

※利用料等は、条例により異なる場合があります。詳細については各園にお問い合わせください。

▲気軽にご利用を

総務民生常任委員会

調査日 11月5日

調査事項① キャッシュレス決済

利便性向上につながる環境へ

【委員会意見】

当町では、令和6年8月から税務課と町民生活課窓口で、各種証明書発行手数料の支払いにキャッシュレス決済を導入しました。導入に当たっては、既に

導入実績のある川崎病院や、大手5社による比較・検討を行い、株式会社七十七カードに依頼しています。利用者も多くは若い世代が中心となっており、高年齢者やITに不慣れな方、現金派

の方などの格差が問題視されているところで、町民の利便性向上のため、町広報紙やホームページ、SNSを活用し、広く周知徹底を図ることが重要であると捉えています。



▲安心して利用できる環境を

キャッシュレス決済は導入から日も浅く、町民への浸透が進んでいない状況です。しかし、多方面で導入が進んでおり、地方自治体でも増加傾向にあります。利便性向上につながるよう、高齢者へ向け、安全安心に利用できる環境をわかりやすく

【検証結果】

発信してください。業務の効率化や現金の取り扱いを減らす取り組みの一つとしてもキャッシュレス化は重要です。住民サービスを維持していくためにも、本庁舎、支所への「キヨスク端末」導入の調査研究にも取り組んでください。

調査事項②

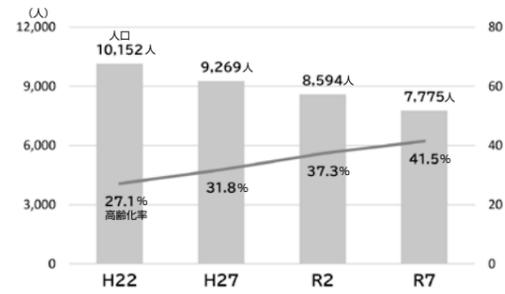
敬老祝い金事業について 時代に合った条例改正を

【調査結果概要】

川崎町敬老祝い金等支給事業は昭和50年3月に支給条例が制定され、「85歳以上に祝金5000円、70歳以上に記念品」を支給する内容で開始しました。

その後、社会情勢等に応じて対象年齢や支給額を改正しながら事業を実施してきました。平成26年度以降は改正せず、100歳30万円、99歳3万円、88歳1万円を支給してきましたが、昨今の超高齢

化社会の影響などから、支給対象者の増加による財政負担も懸念されます。また、各家庭を訪問して祝い金を支払うなど、事業に取り組んでいます。



▲人口減・高齢化増に対し

敬老祝い金等支給事業は、町民への長寿のお祝いに実施されてきました。しかし、財政上の負担も大きいことから、県内各自治体では支給のタイミングや金額縮小などの見直しが行われています。引き続き事業を継続すべきという意見もあります

【委員会意見】

敬老祝い金等支給事業は、町民への長寿のお祝いに実施されてきました。しかし、財政上の負担も大きいことから、県内各自治体では支給のタイミングや金額縮小などの見直しが行われています。引き続き事業を継続すべきという意見もあります

産業建設教育常任委員会

調査日 11月6日

調査事項①

不登校児童生徒の現状と対策 現行の支援体制を維持・拡充

【調査結果概要】

小中学校の不登校児童生徒は、令和5年度は31人でしたが、令和7年度9月時点で9人に減少し、教育支援体制の強化や関係機関との連携が一定の成果を

上げていっていると考えられます。不登校になる要因として、学習面のつまづきや心理的不安などの本人に関わる要因が45.4%と最も高く、次いで家庭に関わる要因が25.4%など、複数の

要因があることを確認しました。別室登校支援やスクールカウンセラー等の関係機関の連携、児童生徒や保護者のカウンセリングなど、多層的な対応に取り組んでいます。



▲誰もが学びやすい環境に

【委員会意見】

不登校の背景は多様化しています。多角的な支援体制を築いていますが、ケアハウスの専門人材の安定確保、相談スペースの確保など運営上の課題もあります。人材確保計画の構築、支援拠点の環境整備、関係機関との連携をより一層進めてください。

不登校傾向にある児童生徒の「早期発見・早期支援」は引き続き重要です。現行の支援体制を維持・拡充し、児童生徒が安心して過ごせる環境づくりを継続してください。

調査事項②

山城跡の現状について 地域との協力が不可欠

【調査結果概要】

町内には5つの城跡（上楯城跡、小野城跡、本砂金城跡、前川本城跡、川崎要害跡）と、7つの館跡（自然地形を利用し、堀や土塁などを設けた砦跡）があ

ります。各所に説明板や標柱、解説図（二次元バーコード入り）を入れたポストを設置し、保護と啓蒙に努めています。城跡のうち上楯城跡、前川本城（中ノ内城）跡、小野城跡は、

昔の形を保存していくために、地域・文化財保護委員会・町が連携しながら刈り払いなどの整備に取り組んでいます。



▲遺構継承に向けて

【委員会意見】

委員会では、前川本城跡と川崎要害跡を現地調査しました。いずれも地域などの協力により適正に管理され、保存状態は良好です。また、SNSを活用するなど、見学者への配慮もされています。引き続き、適切な保存と有効な活用方法を検討

してください。山城跡は私有地が多く、障害木の伐採や草木の刈り払いなど、環境整備には地域との協力が不可欠です。歴史的価値がある遺構を継承していくため、引き続き地域と文化財保護委員会との連携を深めてください。

未来への架け橋

仙台市・川崎町広域行政連絡協議会

大きく前進!



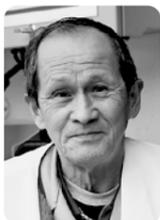
12月16日、国道286号バイパス建設予定地視察が開催され、仙台市側と当町側の進捗状況について説明がありました。県と仙台市、そして当町が連携し情報を共有しながら、地域の将来を見据えた整備が着々と進められています。



仙台市側

事業概要

一般国道286号は第一次緊急輸送道路にも位置づけされる重要な幹線道路です。幅員狭小・線形不良区間を解消し、安全で円滑な交通確保を目的とした、2.7kmのバイパスの整備が行われています。令和11年度完成予定です。



追木 三郎さん
(立野 72歳)

まちの声

この道路は、以前は直線的な経路でしたが、崩落の影響により新たに橋が設置され、現在の道路が整備されました。こうした経緯を踏まえ、今回の整備で、より安全に通行できる道路環境が整うことを、大変うれしく思います。



まちの声

高橋 博文さん
(支倉下 51歳)

286号を通行するたび、長年要望していたことが現実になってきていると感じます。これを機に訪れる人が増え農産物が注目されるきっかけになればと思います。



橋脚の上から視察



川崎町側



まちの声

佐藤 洋さん
(本砂金 46歳)

現在の二つ橋は、上下線で別々に分かれている構造となっているので、事故等が発生すると通行が困難になり、上り坂では大型車両のスリップによる渋滞も課題でした。バイパス整備によって、これらの問題が解消されることを期待します。

あなたのご意見 お聞かせください



意見交換会 参加団体募集中!

議会広聴・広報委員会では、定期的に意見交換会を開催することとしました。意見交換会に参加いただく団体を募集しています。

川崎の現状、そして未来について、広くご意見ご要望などをお聞かせください。

魅力発信

人口減少



▲令和6年7月意見交換会

少子化

学校統合



▲令和5年9月意見交換会

詳しくは議会事務局まで
TEL (0224) 84-2301

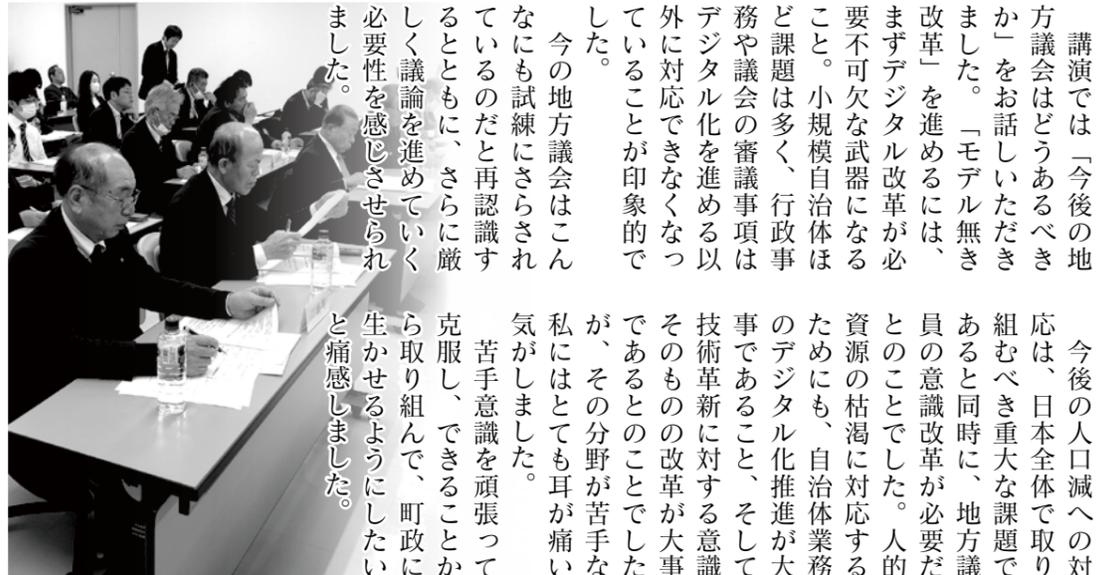
地方制度改革下の地方議会

宮城県町村議会議長会 議員講座

1月22日、県自治会館で議員講座が行われ、当議会から6名が参加しました。参加議員の報告から二部を紹介します。

デジタル化を

佐藤 昭光 議員



意識改革が必要

下斗米 麻子 議員

講演では「今後の地方議会はどうあるべきか」をお話しいただきました。「モデル無き改革」を進めるには、まずデジタル改革が必要不可欠な武器になること。小規模自治体ほど課題は多く、行政事務や議会の審議事項はデジタル化を進める以外に対応できなくなっていることが印象的でした。

今後の人口減への対応は、日本全体で取り組むべき重大な課題であると同時に、地方議員の意識改革が必要だとのことでした。人的資源の枯渇に対応するためにも、自治体業務のデジタル化推進が大事であること、そして技術革新に対する意識そのものの改革が大事であるとのことでしたが、その分野が苦手な私にはとても耳が痛い気がしました。苦手意識を頑張って克服し、できることから取り組んで、町政に生かせるようにしたいと痛感しました。

町村議会の現状と課題

仙南・亶理地方町議会議員合同研修会

1月29日、蔵王町で仙南・亶理地方合同での研修会が行われ、当議会から10名が参加しました。参加議員の報告から二部を紹介します。

環境を整える

佐々木 昭雄 議員

地方議員のなり手不足は深刻な状況で、無投票当選は全国で約3分の1にのぼります。住民の理解を得ず安易に報酬を上げたり定数を削減する方策を取ると、ベテラン議員だけになる悪循環を生み、地方自治の弱体化を招く恐れがあるとのことでした。

住民理解を深める

高橋 義則 議員

住民の理解を伴わない議員報酬の増額や本来の考えからかけ離れた短絡的な議員定数の削減は、なり手不足の悪循環を生み、地方自治の弱体化を招くといわれています。まずは、報酬を含めた議員活動の住民理解を深めるとともに、社会保障を充実させることで、若い人たちが議員に興味を持つってもらうこと。そして、多くの人に議員を目指してもらうことで、議会の活性化、町の発展につながると思います。

視察受け入れ

福島県猪苗代町様

10月29日に福島県猪苗代町議会の皆さんが、当町議会の広報紙づくりを研修されるために来町されました。よりよい広報紙づくりのために、活発な意見交換が行われました。



お知らせ

議会を傍聴してみませんか

議員は、議場でどんな発言をしているか。また、どんなまちづくりを考えているか、今後の町の方向性を直接聞くことができる良い機会です。ぜひお越しください。

※次回の会議は3月3日(火)~12日(木)
一般質問は3月4日(水)~5日(木)
午前10時、再開の予定です。

議会ライブ中継 配信中

(傍聴者は12月会議8人、1月会議1人、
ライブ中継は145アクセスでした。)

詳しくは、議会事務局まで

TEL(0224)84-2301

掲載写真を募集します

本紙の「町の風景」(裏表紙)に掲載する写真を町民の方より募集します。写真をご提供いただける方は、議会事務局までご連絡をお願いします。



※ご提供いただいた写真が必ず掲載となるものではありません。ご理解のうえでご提供願います。

※写真のタイトルは議会広聴・広報委員会で決定いたします。

町の風景



野上のたんぼでひとやすみ

撮影場所:今宿地区

撮影:村上 勝さん(一般応募)

表紙の説明「みんながんばった発表会」

川崎小学校発表会にて
撮影 佐々木 和人さん

議会映像配信

議会の様子が
ご覧いただけます。



発行:川崎町議会
編集:議会広聴・広報委員会

〒989-1592
宮城県柴田郡川崎町大字前川字裏丁175番地1
TEL(0224)84-2301・FAX84-6789
E-mail:kawasaki2@town.kawasaki.miyagi.jp

印刷:株式会社津田印刷